

多重課題シミュレーションのタスク分析

メディカルシミュレーションセンター
浅田 義和

背景	目的	シミュレーション設定
- 新人看護師向けの多重課題シミュレーション教育を実施するため、指導者となる看護主任に対し研修が行われた。 - 実際にシミュレーションを体験してもらったところ、正しくBLSを実施できたケースが少なかった。 - 多重課題の状況に対し、個々のタスクを整理し、学習内容と評価基準を明確化した上でシミュレーションを行う必要がある。	- 多重課題シミュレーションのシナリオに対し、看護師役のタスク分析を行う。 - いつ、何を行うかの整理 - 各タスクの作業負荷を分類 - 多重課題の対処時、失敗しやすい場所を明確にし、トレーニング効率を高める。	心拍低下 B: 菊池 心拍モニタあり C: 空床 A: 小谷 糖尿病、入眠中 D: 後藤 軽度な脳梗塞 トイレ！ ↑ 😊 - シミュレーションのシナリオ 4床部屋の設定(右図) 1年目看護師が1人でラウンド - Dベッド後藤氏「トイレに…」 - その対応中、Bベッド菊池氏の呼吸心拍モニタがアラーム発生 - 心拍 50/min、さらに 0/min へ低下 - 応援要請、後藤氏に声かけを行いつつ、菊池氏に対してBLS - 応援に来た看護師に状況説明

時系列に沿ったタスク	要注意タスクの分析		考察
1. 後藤氏の病状から転倒の危険を余地し、安全確保の対応を行う。 2. （菊池氏HR低下後）10秒以内に患者アセスメントを実行する。 3. スタッフコールを行う。 4. （心静止後）BLSを正しく行う。この際、後藤氏の状態も適宜確認する。 5. （応援到着後）先輩看護師に状況報告。プライバシーに配慮した報告を行う • 実施結果から特に注意が必要と考えられる項目は、2. および 4. である。	トイレ介助→患者アセスメントへの移行 • シミュレーション時の全体的な特徴 「後藤氏の確認」に注意が行き過ぎる傾向 「心拍低下」の状況に慌てやすい • 実施項目と課題の細分化 - 後藤氏に待ってもらうよう、声かけ - 伝えるべき事の整理 - 菊池氏アセスメント&後藤氏の確認 - 意識、呼吸、循環、全身 - ナースコールにて応援要請 - 状況説明 - 応援の要請	菊池氏にBLS実施（後藤氏の状況確認） • シミュレーション時の全体的な特徴 - 脈・呼吸の確認をせずにCPR開始 - CPR不十分、特に5cmの深さが不足 - 焦りから、両者ともあいまいな対応に • 実施項目と課題の細分化 - CPR前：脈と呼吸の確認 - 見て・聞いて・感じて - BLS開始：胸骨圧迫＋換気 - 速さ、深さ、角度、etc - 後藤氏が見えるように - カーテンを開ける - CPR時の位置に注意	• 「後藤氏に気を配りながら〇〇する」という多重課題が多く発生している。 • 時間切迫はそれほど発生しないが、慌ててしまい行動内容に漏れが生じる。 • 「BLSが不十分」という結果はBLSそのものの熟練不足による部分が多い。 • トレーニング前には多重課題に関わる個別スキルの習得度確認が必要である。
			結論
			• 多重課題シミュレーション時のタスク分析を行い、トレーニングの際に参加者・指導者が注意すべき点を整理した。